

Japanese Forum of Winter Sports Science

2010名古屋

第21回冬季スポーツ科学フォーラム



金城学院大学ランドルフ記念講堂

期 日：平成 22 年 3 月 12 日（金）、13 日（土）

会 場：金城学院大学 W9 号館 4 階

主 催：冬季スポーツ研究会

第 21 回冬季スポーツ科学フォーラム実行委員会

協 賛：（株）東大能力研修舎

（株）ベルテック・ジャパン

第 21 回大会の開催を祝して

運営委員長

渡部 和彦（広島大学名誉教授）

「第 21 回冬季スポーツ科学フォーラム」の開催にあたり、ごあいさつ申し上げます。さて、先ごろ行われたバンクーバー冬季オリンピックでは、86 種目において熱戦が繰り広げられました。どの種目でも、世界の一流選手を相手に懸命にプレイする日本選手の姿が鮮明で迫力ある TV 映像とともに感動を与えてくれました。

昨年の 20 回大会（北翔大学）では、スキー距離代表の石田正子、夏見円両選手を招き、オリンピックに臨む意気込みを聞かせていただきました。その際、科学的トレーニングや、身体機能の特性を生かしたレース戦術を知り、大いに感心させられました。石田選手はバンクーバーの 30 キロレースで、かつてない 5 位という素晴らしい結果を残しました。20 キロでのスキー板交換で先頭集団から遅れても、乳酸レベルを考慮してあせらず（自分のペースを守り）、25 キロでの 8 位から追い上げ 5 位に食い込んだといえます。見事な戦略といえます。

今大会では、フィギュアスケートも注目されました。高橋大輔選手の銅、浅田真央選手の銀はじめ、出場選手のすべてが入賞しました。思えば、長野オリンピック「IOC バイオメカニクス研究プロジェクト」で、浅野勝己先生、池上康男先生がチーフとなり、フィギュアスケート競技中のジャンプ 3 次元解析に挑戦されました。このたびの選手たちの活躍は、長年にわたる総合的な支援の成果と言えるでしょう。

スピードスケートでは、現地で選手たちの滑走フォームを画像分析しフォームの修正に活用したと報道されました。これは、画期的なことです。本会員の結城匡啓先生もコーチとして、現場で代表選手の指導に当たりました。男子の長島圭一郎選手の銀、加藤条治選手の銅、さらに女子団体追い抜きの銀など素晴らしい結果でした。

さて、冬季スポーツ科学フォーラムの活動理念については、次のように謳われています。「研究対象は、人間及びその環境とし、基礎的、応用的諸科学を統合し、健康及び体力の向上、競技者の育成、教育指導法、トレーニング法等の開発をめざし、総合的立場から社会的福利に貢献しようとするものである」。

フォーラムは発足から昨年で 20 回を数え、人間に例えると成人を迎えました。今後更なる意義のある活動のためにはどのようにあるべきか。今一度、みんなで意見を出し合おうではありませんか。オリンピックも楽しい話題になるでしょう。炉端の火を囲むように落ちついた気分で語り合いたいものです。

最後になりましたが、このたびの第 21 回フォーラム開催に際しまして、実行委員長の袖山絃先生、事務局長の池上久子先生はじめ、多くのご関係の皆様方のお世話になりました。フォーラムを代表して心からお礼申し上げます。

ご挨拶

第 21 回大会実行委員長
袖山 紘（金城学院大学）

第 21 回冬季スポーツ科学フォーラムを金城学院大学でお引き受けするにあたり、歓迎のご挨拶を申し上げます。

本年は冬季オリンピック開催年度にあたり、つい先日バンクーバー大会が終幕しました。大会前のマスコミの報道の過熱から国民は過大な期待を抱かせられたという一面があったことは否めませんが、結果として日本選手のメダル獲得はスピードスケート男子 500m で銀、銅、女子パシュートで銀、フィギュアスケートで男子銅、女子銀にとどまり、日本選手団としては十分な成果を上げることができたとは言い難いものがありました。ただ、いくつかの競技でメダルは逃したもののもう一息という選手たちが何人か見られたことは、次回への希望を抱かせてくれるものです。しかし、これまでのワールドカップやオリンピックでメダルを獲得していたジャンプや複合などのノルディックスキー競技が振るわなかったことは、今後の選手強化について考え直す必要性を感じます。

バンクーバー大会で特に印象に残ったことは、中国、韓国の活躍ぶりが目覚ましかったことです。これまでは冬季スポーツには後進的であった両国が、ショートトラックスケートの強化から台頭し、ショートトラックのみならずスピードスケートにおいても目を見張る活躍を見せました。このことから、冬季スポーツに対する両国の選手強化状態を日本と比較し、国を挙げての選手強化策の違いについて触れた報道が数多く見られました。

100 年に一度と言われる不況からスポーツ活動への国家予算が削減され、選手強化の行き先は決して明るいものとは言えません。そんな中で国際的に活躍できる選手をどのように育て、強化していくことができるのかを我々は模索しなければなりません。

さらに、もうすぐ開会するパラリンピックの出場選手や障害者スポーツに対する国家的援助についても、中国、韓国と日本には大きな差異があるようです。障害者スポーツに関してもその振興や強化に我々はもっと目を向け、協力することが必要です。

今回のシンポジウムでは、バンクーバーオリンピックの反省を踏まえ、選手の強化策を今後どうすべきかについて活発な討論がなされることを期待します。

第 21 回大会開催が、当方の事情によって 20 回大会（北翔大学）と同年度内の開催にせざるを得なかったことをお詫び申し上げます。同年度内であることと開催時期の関係から発表演題数が少なくなることは予想されましたが、会員の皆様のご協力により何とか開催に漕ぎつけることができましたことを心より感謝申し上げます。

第 21 回冬季スポーツ科学フォーラム実行委員会

実行委員長：袖山 紘（金城学院大学）

副委員長：池上 康男（名古屋大学）

事務局 長：池上 久子（南山大学）

実行委員：谷口裕美子（金城学院大学）、高橋 和文（金城学院大学）

鈴木 春智、田中 佑子（名古屋大学大学院）

大会会場のご案内

大会会場：金城学院大学 W9 号館 4 階

所在地：〒463-8521 名古屋市守山区大森二丁目 1723

Tel：052-798-0180(代表)

Fax：052-798-4462(代表)

アクセス：JR 名古屋駅より

1. JR 中央線 大曽根駅で名鉄瀬戸線に乗り換え、大森金城学院前駅下車
2. 地下鉄東山線 栄（さかえ）駅で名鉄瀬戸線に乗り換え、大森金城学院前下車
北へ徒歩約 300m、3～4 分 大学正門（本部棟前）



会場案内



フォーラム受付：W 9 号館 4 階ホール（NO. 18）（西キャンパス）

（本部棟（NO. 1）エスカレーターで 3 F まで上り、西キャンパスへ移動）

フォーラム会場：W 9 号館（NO. 18） 4 0 8 教室

休 憩 室：W 9 号館 4 0 2 教室（会場の前の部屋）

懇 親 会 会 場：リリープチ（東キャンパス本部棟 4 階（NO. 1））

運 営 委 員 会：W 9 号館 4 0 3 教室（会場の前の部屋）

お知らせとお願い

- (1) 大会受付は案内掲示に従ってW 9 号館 4 階ホールにお越し下さい。
- (2) 参加費（一般：8,000 円、学生：4,000 円）は当日受付でお支払いください。
- (3) 懇親会は 12 日（金）17:20 から行います。懇親会費は参加費に含まれています。
- (4) 休憩はW 9 号館 4 0 2 教室をご利用ください。なお、大学内はすべて禁煙となっています。
- (5) 発表者の方は各自のパソコンを使われても、発表者用に準備したパソコンを使用いただいても結構です。
- (6) 発表時間は 15 分、質疑応答 5 分とします。
- (7) 配布資料での発表を希望される方は演題・演者氏名が記載された資料を用意してください。資料は発表時間 30 分前までに発表受付に提出してください。

大 会 日 程

日にち	時刻	企画内容	場所
3月12日			
(金)	13:00～13:30	運営委員会	W9号館 403 教室
	13:30～14:00	受付	W9号館 4 階ホール
	14:00～14:15	開会	W9号館 408 教室
	14:15～14:45	基調講演 三浦 望慶(上越教育大学名誉教授) 「冬季スポーツ研究の科学的成果と指導 ―スキー研究を中心に―」	
	14:45～15:00	休憩	休憩室
	15:00～16:40	シンポジウム 「冬季スポーツに おける選手強化のための科学的サポート」 シンポジスト 湯田 淳(日本女子体育大学) 「スピードスケートにおける選手強化のための科学的サポート」 三浦 哲(新潟県健康づくり・スポーツ医科学センター) 「アルペン・モーグルスキーにおける選手強化のための科学的サポート」 森 敏(中京大学スキー競技部監督) 「ノルディックスキー競技における選手強化のための科学的サポート」	W9号館 408 教室
	17:20～19:00	懇親会	リリープチ (本部棟4階)
3月13日			
(土)	9:30～10:00	フリーディスカッション 「バンクーバーオリンピックを振り返る」	W9号館 408 教室
	10:00～10:10	休憩	休憩室
	10:10～11:10	一般発表	W9号館 408 教室
	11:10～	閉会式	W9号館 408 教室

3 月 12 日（金） 14:15～14:45

基調講演

三浦 望慶（上越教育大学名誉教授）

「冬季スポーツ研究の科学的成果と指導

－スキー研究を中心に－」

第21回 冬季スポーツ科学フォーラム 基調講演

冬季スポーツの科学的研究成果と指導

―スキー研究を中心に―

上越教育大学名誉教授
三浦望慶

冬季スポーツ最大の大会である「バンクーバーオリンピック2010」の17日間が終わって間もない時期にこの21回冬季スポーツ科学フォーラムが開催されることとなった。今回の実行委員長である袖山紘教授は、第1回フォーラムから運営委員としてこれまで貢献をされてきて、今回のフォーラム開催の運びとなった。袖山教授のこれまでの取り組みと今回の開催に心から敬意を表し、感謝申し上げたい。

基調講演としてまず、スノースポーツの特徴を「人はなぜスノースポーツを行うのか」という視点から取り上げる。次に、冬季スポーツの中でもスキーについて、滑走中の身体重心位置や荷重位置の分析、スキー動作の三次元分析などの研究成果と指導をする際の基本的な事柄との関連について述べたい。

3月12日（金）15:00～16:40

シンポジウム

「冬季スポーツにおける選手強化のための科学的サポート」

シンポジスト

湯田 淳（日本女子体育大学）

「スピードスケートにおける選手強化のための科学的サポート」

三浦 哲（新潟県健康づくり・スポーツ医科学センター）

「アルペン・モーグルスキーにおける選手強化のための科学的サポート」

森 敏（中京大学スキー競技部監督）

「ノルディックスキー競技における選手強化のための科学的サポート」